

### (3) 校歌制定

和田島教場の校歌制定 初代校長 船越茂孝先生作詞

- 1 学舎めぐる青松に 太平洋の波が立つ  
和田の岬に湯浴みして 生い立つ二百の我が友よ
- 2 波静かなる小松島湾（こまつわん）港の漁火（いさり）夕月夜  
平和に明けよ来る朝も 和田の岬に春近し

和田島教場の校歌は、初代校長船越茂孝氏により作成されたものであり、歌われた期間が短いため記憶している人が少なく、上記の歌詞は松田トラ子氏の記憶からのものである。

松田トラ子氏は坂野中第2回の卒業生。「当時、和田島は漁師村で子供も重要な働き手で、新制中学校に対する必要性の意識は高まっていなかった。和田島教場の同級生は63名（男子24名・女子39名）、3年生の時19名（男子10名・女子9名）が坂野教場へ通い卒業した」とのこと。学べた幸せを語り、白砂青松・太平洋の波打ち寄せる大自然を歌った校歌を鮮明に記憶していました。従って、昭和23年度和田島教場から坂野教場へ行った生徒は、3年生が19名、2年生が3名と思われる。

#### 坂野中学校の校歌制定

昭和24年11月10日、和田島教場の校歌に続いて、現在の坂中校歌「久遠の光」が制定された。初代校長船越茂孝氏が、東京在住の作曲家小川一郎氏に作曲を依頼し、自ら作詞をされ完成した。右の写真は同年11月25日の教職員による試唱会の様子である。（写真：故日切 要氏 所蔵）



#### 校歌

作詞 船越茂孝  
作曲 小川一郎

一 久遠の光天地に満ちて  
阿南の沃野坂野町ここに  
知識の泉は音にたちてわく  
学びの園の坂野中学

二 百花の香りにおいも妙に  
きそい生いたつ青少年の  
腕と知識の果てもしられず  
学びの園の坂野中学

三 自然のめぐみ豊けき愛の  
心のいとひびきゆかしく  
おとこおみなはじめはあらず  
学びの園の坂野中学

四 槌の音こつこつさえてぞきこゆ  
日々にきざめるのみのあとしるく  
今日はあしたの歴史をつくる  
学びの園の坂野中学



坂中合唱部の誕生  
ピアノ伴奏 瀧 健一先生  
(写真 故園田豊氏所蔵)